

# 平成30年度の管理運営状況（東京辰巳国際水泳場）

指定管理者:オーエンス・セントラル・都水協・事業団グループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
状 管 況 理	適切な 管理の 履行	施設・設備の 保守点検	30年度は設備職員8名を配置し、適正に業務を行った。また、設備・機器の老朽化に伴う各種修繕や、「レーンボックス」「AS・ダイビング審判用端末」等、大会運営用備品の修繕を実施。(50件 総額約18,800千円。4か月の工事休館にもかかわらず、件数はほぼ横ばい、金額は4割増。)
		プール施設の 管理	中央監視システムにより適宜、室温、水温、遊離残留塩素濃度が保持されているか水質チェックを行っている。また、ライフガード部門では毎時、水温、PH値、遊離残留塩素濃度の水質検査を実施。水質検査のダブルチェック等により水質の保持に努めており、利用者から透明度が高い等、高い評価を受けている。
		人材育成の取 組み	休館中の取組として、研修の充実に取り組んだ。コンプライアンスやサイバーセキュリティメンタルヘルス、環境への配慮、個人情報保護研修等のほか、改めて全職員を対象に専門研修機関から講師を招いてCS向上や外国人対応に係る接客研修を行った。また、先進事例に係る知見を深めるため、類似施設(5施設)の視察研修を実施。さらに、受付スタッフには的確な電話案内に関する研修も行った。
		施設の提供に ついて	(1) 日本水泳連盟等と緊密な連携を図り、大会開催時の時間外使用や柔軟な施設利用等を認め、関係者からは施設が使い易い、大会運営がやり易いと、好評を得ている。 (2) 24年度「指定管理者管理運営状況評価」で、「今後取り組むべき」とされた「地域の学校等との連携」について、江東区教育委員会と共に引き続き「江東区立中学校連合夏季大会水泳大会」を開催した。また、「江東区民体育大会水泳大会」の開催にも協力。 (3) 大規模大会の実績としては、例えば水泳屋内競技全種目(競泳、水球、アーティスティックスイミング、飛込み)の日本選手権を当水泳場で開催。さらに国際大会としては、「パンパシフィック水泳選手権大会2018」「FINA競泳ワールドカップ2018」「ジャパンオープン2018」を誘致し開催した。
安全 性 の 確 保	防災への配 慮・緊急時 対策	(1) 防災訓練は、消防計画に基づく自衛消防訓練を年2回行ったほか、休館中の取組として応急救護訓練を実施。また、当館の自衛消防隊が毎年参加している地元消防署主催の「技術審査会」に30年度も参加し、防火管理の技術向上を図った。 (2) 館内のレストランと協定を結び、一時滞在施設として帰宅困難者への清涼飲料水(お茶等3000本)の確保を独自に実施。また設置自販機についても、災害時の飲料等の無償提供を可能にしている。	
事 業 効 果	利用の 状況	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人利用者数 30年度の利用者数は30,748人。休館の影響で29年度と比較し12,226人の減となったが、1日当たりの利用者数では263人と、前年度と比較し60人の増加となった。これは少なくとも過去5年間で最も多い利用者数である。「映像によるワンポイントアドバイス」「映像によるスタートレッスン」「スイムチャレンジ記録会」、「飛込(板飛び/高飛び)撮影サービス」等のきめ細かな利用者サービスを地道に続けてきたこと等によるものと思える。</li> <li>団体利用稼働率 プールの使用率は、メインプール96.7%(29年度95.6%)、サブプール95.1%(同92.8%)ダイビングプール50.7%(同57.4%)であり、メインプール、サブプールが昨年度を上回った。 また、団体利用者数は404,242人。前年度から90,617人の減となった。これも長期休館の影響と思われる。</li> </ul>
		スポーツ振興 事業の実施状 況 及び 自主事業	(1) スポーツ振興事業 事業計画に基づき11事業を実施した。特に「東京辰巳国際水泳場杯(競泳・フィン競技)」は、開館以来26回連続開催となり、誰でも参加できる大会として定着。参加者も年々増え、30年度は延べ3,603人で、多くの方々に楽しんでいただいた。 (2) 自主事業 「こども水泳スクール」など全7事業を実施。通年の教室形式で実施しているため休館中は休講となったが、希望者には近隣スクールで継続できるようにする等、受講者の意向に沿った対応を行った。
	事業の 取組	サービス向上 に向けた取組 み	(1) プリペイドカードの共通化を求める都民の声を踏まえ、東京体育館等の他施設でも利用可能なカードを導入し、既存カードからの転換を進めた。 (2) レーンロープやダイビングボード等、経年劣化した競技用備品等の更新を積極的に行って、利用環境の維持・向上を図った。執行額は当初計画の3倍以上に上った。 (3) 利用者の願い事の短冊をつけた七夕祭りの飾りつけや、イベント時の金メダルの展示など、オリンピックの協力も得て楽しい、親しみやすい雰囲気づくりに努めた。
		利用者ニーズ の把握	(1) 利用者懇談会や意見箱(「私の一言」)によるもののほか、利用者満足度調査を実施。総合満足度は「十分満足」「まあ満足」の合計が個人・団体・事業のいずれも97%以上となり、高い満足度を示している。 (2) 苦情や要望は、意見箱への投書となって現れることが多いので、当館ではそれぞれについて、その内容と当館の見解・対応をまとめ、誰でも閲覧できるよう、公開している。
		その他(大規 模工事への対 応)	(1) 工事定例会に欠かさず出席するなど都や施工業者と積極的に情報の共有を図り、工事の進捗に合わせて助言や対応を行うことで、工事の円滑な進行に貢献。 (2) 警察等からの求めに応じて施工業者が工事用監視カメラを設置するにあたり、インターネット環境の整備や監視業務を当館警備員が担うなど、その運用に至るまで全面的に協力。 (3) 工事期間中に、都や施工業者等も交えた合同安全点検パトロールを提案・実施し、安全な作業(執務)環境の確保に努めた。